

PEM028-P01

会場:コンベンションホール

時間:5月27日 10:30-13:00

太陽面での現象と太陽風変動の関係

Relation between activities on the solar surface and solar wind variation

和田 大三郎^{1*}, 三宅 互¹

Daizaburo Wada^{1*}, Wataru Miyake¹

¹ 東海大・工・航空宇宙

¹Tokai Univ.;

地球周辺の宇宙空間に生じる様々なジオスペース擾乱は太陽活動や太陽風が主な発生要因である。そのため地球に到来する太陽風の情報をより早くより正確に予測することが重要である。A. Opitz et al.(2009) は地球周辺の宇宙空間のじょう乱を予測するために、STEREO AHEAD(STA), STEREO BEHIND(STB) から送られてくる太陽風データを利用して、太陽風の時間的な変化を定量的に解析した。太陽風の変化は、太陽と衛星間の距離差と経度差からなるタイムラグだけを考慮すれば一致するものではなく、CME、CIR、緯度勾配による速度変化を考慮すること、また時間的な変化を加えることで説明がつくと考えた。我々の研究はACE(太陽-地球間にあるL1付近を軌道する)を加えて太陽面、太陽風の構造がどのように変動していくかより細かく解析していく。また観測した太陽風からその太陽風の源を知り、太陽表面上の色々なデータと観測された太陽風を比較することで関係を調べる。

キーワード: じょう乱, 太陽風, 太陽表面, タイムラグ, 時間的影響, 空間的影響

Keywords: disturbance, solar wind, solar surface, time lag, Temporal effect, Spatial effect